

## 「縄文海進崖と北島・天下茶屋の歴史環境を巡る」 街歩記

実施日：9月20日(金)

集合時間：9:30

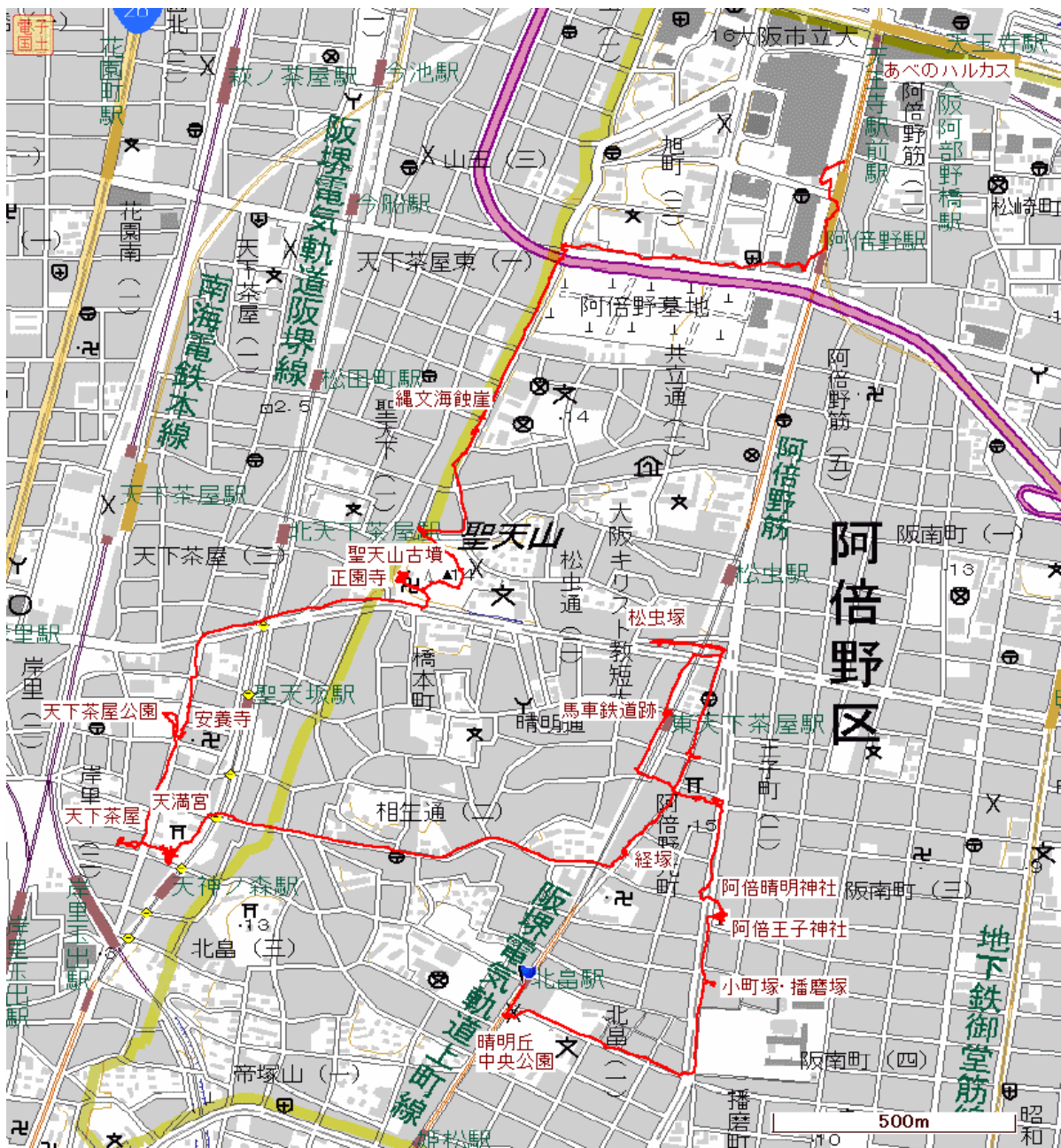
場所：地下鉄御堂筋線天王寺西改札口

ガイド：「大阪おもしろツアー案内人」の沖本然生氏

ひとりで参加者 36名を案内

昼食：天神森天満宮

### 歩行ルート図



南海・上町線 天王寺駅よりチンチン電車にて北畠まで移動

晴明丘中央公園：今日の予定の説明

小町塚、播磨塚



帝塚山周辺の土地開発は、この地の山本藤助が深く関わっていた

・小野小町的美貌、才能にあやかりたいと信仰などの目的のために造られた？  
・南北朝時代の播磨の兵士の塚

北畠公園：



伝北畠顕家の墓：北畠顕家は南北朝時代の武将、後醍醐天皇に仕え、父の親房公とともに奥羽平定にあたった人。この地は太平記に「5月22日(1338延元3年)和泉の境、阿倍野にて討死し給ひければ、相従う兵悉く腹切り疲を被って一人不残失せにけり」と記され、20余騎の手兵で足利尊氏の大軍を迎え討ち、弱冠21歳で戦死したところと伝えられている。

阿倍王子神社：



「あべの」の地名の由来となった阿倍一族の氏神社  
平安時代に熊野信仰が盛んとなり、熊野街道が整備されると、紀州熊野大社の末社、熊野九十九王子の第二王子社となり、現在では大阪府下唯一の旧地現存王子社

天王寺蕪：硬くて水をやりすぎると割れてしまうので水も肥料も少なめにせなあきません。普通の野菜に比べ、伝統野菜は改良されていない原種ですから

病気にかかりやすい。消毒もしてやらないと平べ



ったい天王寺蕪は身がしまって甘いし、香りがいい。シチューにしてもいい。



**熊野街道**：平安時代から盛んになった熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社熊野那智大社）への参詣に 利用された街道の総称



**安倍晴明神社**：



平安時代に陰陽師として活躍した安倍晴明の生誕伝承地であり、1007年にその死を惜しんで花山上皇の斜こより創建されたと伝えられている。境内には、飛び跳ねた格好の白狐の像（葛の英霊狐飛来像）と「安倍晴明生誕伝承地」及び晴明の産湯を汲んだとされる井戸が並んでいる。



**松虫塚**：

伝説には官女松虫、鈴虫の説（「芦分船」）。（謡曲「松虫」）や、ほかいくつかの伝説が残っている。



**東天下茶屋駅**：



阪堺電気軌道100年の歴史が掲示されている



**経塚**：塚の

由来は、摂陽群談に、聖徳



太子が諸経照苦渋字ずつ一石に書いてここに収めたとする説と、阿倍王子神社の縁起書である「阿倍権現記」に、826年の夏、疫病流行に際し空海が阿倍王子神社に入り千部の薬師経を书写しこの塚に納めたとする二つの説がある。



## 天神森天満宮：

(宮司のお話と昼食場所)

樹齢 600 年ともいわれる楠木がお宮さんのおかげで残る



## 楠大樹天満宮に小鳥来る

室町時代末期の茶匠武野紹鷗が当地の森林に湧く泉水を愛し、歳月を送った所。

社は、応永年間（1394～1428）北野天満宮の分霊を勧請し、菅原道真公を祀っている。

安天満宮ともいわれる。東側に子安石があり、安産のご利益があるとして 参拝者で賑わった。

## 水澄むや天神さんの子安石



### 天下茶屋跡：

400 年余り昔、太閤秀吉が住吉大社参拝や堺への往来の際、ここの茶店で休息、茶の湯を楽しみ付近の風景を賞したことからこの茶店を天下茶屋と呼ぶようになりました。その由来を示す建物(芽木家)は戦災で焼失し、現在は天下茶屋跡として、くすのきの大樹と土蔵、石像だけが残っている。昭和 62 年に現在のものに修復された。



**住吉街道（紀州街道）**：足利時代末期に上町丘陵を走る阿倍野街道に代わって、新たに大坂より堺に至る往来路として低地を走る住吉 街道（紀州街道）が出現した。



**天下茶屋公園**：阿倍寺塔柱礎石 阿倍寺は阿倍氏の氏寺で大化の改新を推進した孝徳朝の左大臣、阿倍倉梯麻呂の創建と考えられている。塔柱礎石は阿倍野区松崎町にあったが、現在はここに礎石が移設保存されている。礎石は花崗岩、白鳳時代の五重塔のものと思われ、中央に柱穴を彫り、その穴の中央に舍利穴がある。[ 昭和 49 年大阪府指定文化財考古資料 ]



**安養寺**：



浄土宗知恩院派一心寺の末寺、本尊は阿弥陀仏、元禄 2 年( 1689 )貞誉清薫尼の創建。1887 年 の失火と 1945 年の戦災で 2 度焼失、現在の寺は 1959 年再建のもの。境内には、紙治おさん、猪名川、佐藤魚丸の墓がある。



**正圀寺**：  
( 天下茶屋の聖天さん )  
939 年開基、当初は現在地より東 500m のところ



ろにあった般若山阿倍寺の一坊でしたが元禄年間に現在の地に移り、西方に海を望見できることから「海照山正圀寺」と命名され「天下茶屋の聖天さん」と親しまれている。ご本尊は商売の神様、大聖歡喜天で日本最大の木彫りの聖天さんとして知られている。また聖天山は標高 14 メートルの低山で、正圀寺境内に山頂があります。



**兼好法師の藁打石**：「徒然草」の作者として有名な吉田兼好は阿倍野に質素な庵を建て、隠れ住んだ時期がありました。丸山の古墳のふもとで藁を打って縄やむしろなどを編んで生計をたて生活をしていました。その兼好が藁



を打ったといわれる「藁打石」は「大聖歡喜天」と彫られた石標の台石として残っている。

聖天山古墳聖天山古墳は昭和 26 年の土砂採取中に、巨石に囲まれた石室が発見され、埴輪・馬具・直刀須恵器などが出土しました。馬具が出土していることから、古墳時代後期の古墳であったと推定されているが、これらの出土品がその後どうなったか、現在は不明。



**縄文海進崖**：上町台地の西側は崖になっている。生国魂神社のあたり、大阪市営南霊園西側、さらに阿部野神社から玉出へと、**落差 10m 前後の崖または階段**がある。



## 浸食の痕をつぶさに彼岸花

阿倍野近鉄 ハルカスが見えた。今日の街歩きは終了  
あそこまで行けば冷えたビールが飲めるゾ！



説明文：沖本/ 一部簡略化し編集&写真：伊月  
俳句：秋山/ 歩行ルート図：平山